

「水と生きる」企業として 新たな価値の創造に挑戦し続けます

サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長

新浪剛史

「日本人の繊細な味覚に合った日本のウイスキーをつくりたい」という創業者・鳥井信治郎の夢から90年余。今日、サントリーグループは世界的な酒類コンペティション「インターナショナル・スピリッツ・チャレンジ (ISC)」において、高品質で多彩な製品を生み出したメーカーの中から1社に贈られる栄誉ある賞「ディスティラー オブ ザ イヤー」を3年連続で受賞するまでになりました。日本のお客様満足を追求してきた結果、世界から高い評価をいただいたことは、大変光栄なことです。私たちはすべての商品において、安全・安心はもとより、美味しさや香り、容器の使いやすさなど、お客様の飲用時・飲食時の品質にもこだわる姿勢を貫いてきました。

2015年5月には、研究開発部門のさらなる強化のため、分散している基盤研究・技術開発拠点を移転・集約し、「サントリー ワールド リサーチセンター」を新たに開設しました。グローバルな研究開発拠点として、世界最先端の研究に取り組み、より品質の高い商品の開発とともに、新

たな価値の創造を目指していきます。

創業以来、サントリーグループの原動力となっているのが、「やってみなはれ」の精神です。人のやらないこと、新しいことに挑戦し、さまざまな価値を創造することで、豊かな生活の実現への貢献を目指してきました。昨年、ビームサントリー社が誕生し、酒類・食品の両輪でグローバル展開ができる体制となり、日本発のユニークな総合酒類食品企業として、よりよい商品・サービスをお届けすることを通じて、世界各地のお客様への貢献を目指していきます。

私たちの思いを広く社会と共有する言葉「水と生きる」。これには3つの思いが込められています。

1つ目は「水を育む環境を守りたい」という思いです。「21世紀は水の世紀」といわれるほど、水の重要性に対する認識は世界中で高まっています。私たちは水をはじめとした



自然の恵みによって支えられている企業として、豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、持続可能な社会を目指した環境経営を推進していくことが、大切な責務と考えています。現在、2014年に策定した「サントリー環境ビジョン2050」達成に向けて、自然環境の保全・再生および環境負荷低減の活動をグローバルに推進しているところです。

2つ目は「社会に潤いを与える企業でありたい」という思い。事業で得た利益の一部は社会への貢献のためにも役立てたいという創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神は今もお脈々と流れ続けています。創業者が熱心に取り組んだ社会福祉活動に始まり、芸術・文化・学術やスポーツの振興、次世代育成など幅広く活動を展開しています。東日本大震災発生以降は、被災地の早期復興を願い、「漁業」「子ども」「チャレンジ・スポーツ(障がい者スポーツ)」「文化・スポーツ」の分野を中心に、108億円の規模で復興支援活動に取り組んでいます。

そして3つ目は「水のように柔軟に常に新しいテーマに挑戦していきたい」という思い。従業員一人ひとりがサントリーグループの企業理念を共有した上で、大きな夢をもって個性を存分に発揮できる自由闊達な社風をさらに醸成していくことでお客様に感動や驚きを提供していきたいと考えています。多様な人材が集い、多様な事業をグローバルに展開する企業として、ダイバーシティ経営を重要課題と位置づけ、創造性あふれる人材育成や職場環境づくりを推進しています。

● 私たちは企業理念「人と自然と響きあう」のもと、創業者の精神を受け継ぎ、生命の輝きに満ちた持続可能な社会の実現を図りながら、新たな価値を創造し続ける「Growing for Good」な企業を目指してまいります。今後とも皆様のご支援・ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年6月